徳洲会グループ
TOKUSHUKAI MEDICAL GROUP

2026 年 11 月 26 日
一般社団法人徳洲会
徳洲会学術振興基金

徳洲会学術振興基金
「細胞外小胞・再生医療研究支援プログラム」を創設
～5 年間で総額最大 7 億 5000 万円　エクソソーム研究の臨床実装を支援～

一般社団法人徳洲会は、このたび徳洲会学術振興基金を創出し、本事業として細胞外小胞（エクソソームを含む）および再生医療分野の研究を支援する「細胞外小胞・再生医療研究支援プログラム」を創設しました。2026 年 12 月 9 日（水）に湘南アイパーク（神奈川県藤沢市）を会場に開催する「第 2 回徳洲会国際再生医療シンポジウム」で、17 時 30 分から当法人の東上震一理事長が本プログラムの開始を正式に発表します。本プログラムは当法人の予算により、年間最大 1 億 5,000 万円、5 年間で総額最大 7 億 5,000 万円の研究支援を行うもので、2027 年に支援対象の募集・選考を行います。

■　プログラム創設の背景

細胞外小胞は細胞が分泌する微小な粒子で、細胞間の情報伝達を担い、組織修復や炎症の抑制などへの応用が期待されています。近年、米国や中国をはじめ世界中で研究が進み、新たな治療法として注目を集めています。

国内の再生医療研究への公的支援は、iPS 細胞（人工多能性幹細胞）を中心に進められてきました（2013～2022 年度の 10 年間で約 1,100 億円）。しかし、その他の細胞外小胞・再生医療などの基礎研究への支援は行われているものの、臨床実装を目指す大型の支援は、限られているのが実情です。

徳洲会グループでは、基幹病院である湘南鎌倉総合病院（神奈川県）が今年 2 月、NHK などでの報道にありましたように、本邦初の細胞外小胞製剤を用いた変形性膝関節症の特定臨床研究を開始するなど、この分野の臨床応用に取り組んでいます。

本プログラムは研究成果を医療現場へつなぐとともに、次世代の研究者を育成することを目的としています。

■　プログラムの概要

- 名称・主催
  徳洲会学術振興基金「細胞外小胞・再生医療研究支援プログラム」（主催：一般社団法人徳洲会）
- 支援規模
  年間最大 1 億 5,000 万円、5 年間で総額最大 7 億 5,000 万円（当法人の予算により実施）

- 臨床実装推進枠（年額 1 億円×1 件、支援期間は最長 5 年）
  臨床開発に向けた取り組みが始まっている細胞外小胞・再生医療の研究グループを重点的に支援します。学識研究者の意見などを参考に、徳洲会理事会が推薦する研究者を対象とし、公募は行いません。
- 研究シーズ育成枠（一般公募）
  将来の臨床応用が期待される細胞外小胞・再生医療の基礎研究や独創的な研究を支援します。一般枠は年額 1,000 万円×3 件、若手枠は年額 500 万円×4 件で、支援期間は最長 5 年です。
- 審査・採択
  いずれの枠も、評価委員会による審査を経て、理事長が採択を決定します。
- 研究成果の発信
  採択者は、毎年開催予定の徳洲会国際再生医療シンポジウムで研究成果（中間成果を含む）を報告します。

■ 今後のスケジュール（予定）

・2026 年 12 月 9 日 17:30～　第 2 回徳洲会国際再生医療シンポジウム初日終了時に正式発表
・2026 年 12 月　公募要領の公開
・2027 年 1 月上旬～2 月下旬　研究シーズ育成枠の応募受付
・2027 年 3 月～4 月　書面審査、評価委員会による審査
・2027 年 5 月上旬　採択者の決定
・2027 年 6 月上旬　採択者の発表

※日程は変更となる場合があります。

■ 第 2 回徳洲会国際再生医療シンポジウムについて

・会　期：2026 年 12 月 9 日（水）～10 日（木）
・会　場：湘南アイパーク（湘南ヘルスイノベーションパーク、神奈川県藤沢市）、ハイブリッドで開催
・テーマ：再生医療の新たなステージ “サイエンスから臨床実装へ”
・主　催：一般社団法人徳洲会、湘南鎌倉総合病院

●同シンポジウムの詳細は 2 次元バーコードないしは下記 URL から
https://www.tokushukai.or.jp/academic/regemed_kamakura/2026/